**自分史**

1. 自己紹介
   * 現在27歳
   * 生まれ/育ち：神奈川県
   * 家族構成：父、母、姉、自分の4人家族
   * 職業：システムエンジニア
2. 幼少期
   * (1～6歳) 保育園に通園
   * 遊ぶ友達は男女両方
   * 大人数より少人数か1人で遊ぶのが好き  
     ・好きな遊び：木登り/虫採集/漢字ドリル
   * (5歳～) バイオリンを習う  
     ・自ら希望して習い始める

・発表会のピンク衣装が嫌だった記憶

1. 小学生  
   2.1 低学年
   * 赤のランドセルに疑問  
     ・「自分は赤でなきゃいけない」と悟る
   * 性格は大人しく、引っ込み思案
   * 1人遊びが好き  
     ・主に読書
   1. 高学年
   * 自分の服装に興味を持ち始める  
     ・スカートは履かず、ズボンのみ
   * 小学校と学童保育の二重生活  
     ・遊び相手が異なる  
     　　小学校：女子  
     　　学童保育：男子  
     ・休日は、男子とスポーツやTVゲーム  
     　※学童保育の男性職員に誘われたことが　  
     　　きっかけで、男子と遊び始める
   * 中学受験のため塾通い  
     ・親が選んだ学校の選択肢が女子校のみ  
     　　特に嫌悪感はなし  
     　　自分が「女子である」ことに気づく  
     　　→求められる女子像に近付こうとする
   * 初恋は小学6年生  
     ・相手は同じクラスの女子
2. 中学～高校生
   * 中高一貫の女子校に入学
   * 服装  
     ・初めての女子制服は、「自分は女子だから  
     　仕方ない」と考える  
     ・休日は男装
   * 交友関係  
     ・部活に同期入部の女性と恋人関係になる

・学校も私生活も、女性の友人と過ごす  
・GIDを自覚してからはFTMの友人が増  
　える

* + 家族  
    ・両親に「女性らしい外見」を促され始め  
    　るが、苦痛
  + GID   
    ・中学3年でドラマをきっかけにGIDの存  
    　在を知り、自分がGIDの可能性があるこ  
    　とを確信  
    ・胸の膨らみに嫌悪を感じ、潰して生活  
    　※通称「トラシャツ」を購入  
    ・外見を男性に近づけるため、短髪にして  
    　整髪料で髪を立てる  
    ・周囲にGIDをカミングアウト開始  
    　相手は養護教諭と友人数名

1. 大学生
   * 大学生活  
     ・理工学部情報科学科へ入学  
     ・女性として通学  
     ・友人は全員女性  
     ・学生相談室にGIDの疑いがあることを相  
     　談し、健康診断にて配慮を頂く  
     ・サークルやアルバイトはせず勉学に励む
   * 私生活（バンド活動）  
     ・インターネットを通じて知り合った友人　  
     　とバンドを組み、週1回の練習を行う  
     ・人生で初めて男性として振舞う  
     ・勉強へのストレスと、大学で女性として  
     　振舞うことへのストレスを発散
   * 服装  
     ・大学でも私生活でも男装  
     　（大学初年度は女性寄りの服装を試みた  
     　　が、苦痛を感じ徐々に男性寄りに）
   * GID  
     ・18歳で母親にGIDをカミングアウトする  
     　も「聞きたくない」と拒否される  
     　→寂しさと不安

　※現在まで、二度と話題に出ていない

・大学1年生でSNSにてカミングアウトし、  
　高校時代の友人に周知  
　　→全員が肯定的で、喜びと肩の荷が下  
　　　りたように感じる  
・治療について考え始め、就職後に再検討  
　する方針に決定  
　※性自認は男性と確信していたが、「我  
　　慢できれば普通の人生が送れる」と考  
　　えた

1. 大学院生
   * 大学院生活  
     ・学部とは別の大学院に進学  
     ・研究室に所属する女性が自分のみ  
     　→自分だけ特別扱いされることが多く、  
     　　「自分は男性ではない」ことを実感  
     ・就職活動で初めて女性物のスーツや化粧  
     　などに触れ、苦痛
   * 私生活  
     ・基本は大学生活の延長で、時間を割いた  
     　のは主にバンド活動
   * 健康  
     ・食欲不振により体重が半年で25kg減少  
     　原因は就職活動・修士研究・失恋が重な  
     　ったストレスであると自負  
     　→女性として生きることに限界を感じる
2. 社会人（～現在）
   * 仕事  
     ・IT系会社員（システムエンジニア）  
     ・女性として勤務  
     ・服装自由のため、男性寄りの服装で勤務  
     ・仕事中に「女性らしさ」を求められるこ  
     　とは無いが、男性とは別の扱いを受ける  
     　ことに苦痛や申し訳なさを感じる
   * 私生活  
     ・女性パートナーと二人暮らし  
     ・冠婚葬祭で苦痛や悲しみ  
     　（女性としてのパーティーの装い、棺桶  
     　　を運ぶのは男性、など）  
     ・家族行事を除き男性として生活している  
     　が、女性だと見破られることはほぼ無し
   * 交友関係  
     ・家族以外(友人や恋人)は自分を男性または  
     　FTMと認識
   * GID  
     ・GIDを自覚してから10年以上経ち、自分  
     　を取り巻く環境が様々変わったが、  
     　　自分の体への嫌悪感  
     　　女性として扱われることの苦痛  
     　は一貫して変わらず。  
     　また食欲不振も2年以上続いていること  
     　から、女性として生活することへの限界  
     　を感じ、GIDの診断および治療を希望し  
     　ている。